

1. 本園の目指す幼児像

- 自ら考え行動できる子ども（意欲・思考・自立・自律）
- 豊かな感性が育ち、生き生きと表現する子ども（発想・工夫・自信）
- 自己も他者も尊重して良い人間関係を築ける子ども（快活・協調・思いやり）

2. 本年度の重点的に取り組む目標・・・表内縦書き赤字

- 幼児の主体性を育むための保育の展開
- 保育者の資質向上を目指し園内研修の充実を図る
- 保護者と信頼関係を構築して幼児の育ちを共有する

3. 評価項目の達成および取り組み状況

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果							コメント
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果	総括 評価	
幼児の 主体性を 育むための 保育の展開	幼児が自己発揮 して遊べるような 環境構成の工夫	4	幼児の遊びを予想したり、前日の振り返りや記録から子どもの思いをくみ取ったりして環境の再構成をする	3, 2	4	(ほとんどの) 幼児が自己発揮しながら環境に関わり、自分たちで展開しながら遊んでいる	3, 5	A (3, 4)	・評価の結果から健やかな育ちにとって「遊び」が重要である事は、保育者全体に認識されている事を実感した。またその為の「環境構成」が子どもの育ちの大きな要因になっている事も実感していた。 ・日々の保育を振り返り、子どもの姿を念頭に置き、次の日の保育の環境構成や教材の準備をしていきながら、子どもたちとともに保育者も楽しみながら「遊びの展開(工夫)」を考えられるようになることは、今後の課題としてあげられる。
		3	幼児の遊びを予想して必要な物を準備し、環境を再構成する		3	(ほとんどの) 幼児が夢中になって遊んでいる			
		2	前日の遊びがより楽しくなるよう教材や環境を準備する		2	(ほとんどの) 幼児が楽しそうに遊んでいる			
		1	前日の遊びが継続できるよう準備する		1	まだ何をして遊んだらいいか分からない幼児がいる			
	幼児が生き生きと 表現(ことば)する ための保育の展開	4	皆の前で発言する機会を与え、発言し、認めてもらえた気持ち良さを味合わせている	3, 5	4	(ほとんどの) 幼児が自信をもって発言できるようになった	3, 3	A (3, 4)	
		3	幼児の発言に言葉を添え、集会で披露して他児の意見を求めている		3	(ほとんどの) 幼児が数名の友達の中では、自分の意見を出せるようになった			
		2	幼児の発言は肯定的に受け止めている		2	(ほとんどの) 幼児が担任や友だち同士で言葉のやり取りを楽しむようになった			
		1	幼児とおしゃべりを弾ませ楽しんでいる		1	幼児同士おしゃべりを楽しむようになる			

<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">保育者の資質向上を目指し 園内研修の充実を図る</p>	<p>定期的な園内研修の実施 (年間計画に組み込む)</p>	4	2カ月に1回程度(6回)	2	4	自ら学びたい内容を提案したり自主的に研修に参加したりして学ぶようになった	3, 1	C (2, 5)	<p>・研修で学んだことを実践し、次の保育に繋がっている事が分かる。特に毎年行っているお互いの保育を観合って協議する研修会は効果が高く、自分の保育を撮影(参観するため)した保育者は着実に自信に繋がっている。 ・園内研修という名目では回数は少なかったが、毎月行うカリキュラム会議、異年齢でのジョイント会議等の中で学ぶものも多かった。時間の制約がある中でも、保育の質を高めるための研修、一人一人が学びたいと思っている研修を考え、今後も充実させていきたい。</p>
		3	3カ月に1回程度(4回)		3	研修で学んだことを皆に報告したり、実際にやってみたりするようになった			
		2	学期に1回程度(3回)		2	園内研修に意欲的に参加するようになった			
		1	年に2回程度		1	研修会に真面目に参加している			
<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">保護者との信頼関係を構築して 幼児の育ちを共有する</p>	<p>保護者一人一人と信頼関係を構築する</p>	1	育児のパートナーとして、子どもの成長や課題を共有している	0, 8	1	保護者が幼児のことを相談に来るようになった	0, 8	A (0, 8)	<p>・コロナ禍ではあったが、電話連絡や送迎時を利用してコミュニケーションをとる事で信頼関係を築いていくことができた。 担任は、短くても日々誠意をもって関わっていく事で相手に伝わり、良好な関係が築ける事を実感したようでやりがいに繋がっている。 ・幼稚園側の思いをうまく伝える事ができず、悩む時もある。良い時も難しい時も職員間で連携をとり、保護者との信頼関係を更に深めるため、今後も真摯に向き合っていきたいと考える。</p>
		1	保護者と幼児の理解を深めるために積極的に意見交換をしている		1	保護者が園や担任に協力的になった			
		1	登降園時に保護者と積極的に挨拶を交わしコミュニケーションを図っている		1	保護者とコミュニケーションが良好になった			
		1	日々の電話連絡(連絡帳)や学級だよりで幼児の育ちを伝えている		1	保護者が育児を楽しめているように感じる			

○取組と成果に関する評価結果

A: とても良い B: まあまあ良い C: 普通 D: 良くない(要検討)

○総合的な評価

評価	理由
B	<p>・本年度の重点目標を念頭におき1年間取り組んできた保育実践は、総合結果からも分かるようにかなり達成できていると思う。日々の保育を振り返り、幼児にどのような育ちが見えるのかを考慮しながら、次の日の環境を準備し活動や行事に取り組んできた結果であると感じる。</p> <p>・子どもの育ちを支える保育者にとって「研修」はなくてはならないものとする。忙しい毎日の中、時間を見つけ意欲的に研修に参加してきた1年であった。次年度に向けて、園の中で互いの保育を見つめ合い、助言し合ったり話し合ったりしながら、身近な仲間同士で保育を見つめ合う園内研修に力を入れていきたい。</p> <p>・コロナ禍で過ごす園生活の中、保護者と幼児の育ちを共有するという点で新たな課題が見えた。園で生き生きと過ごす姿を保護者に観てもらうことで感動と喜びを共感することが保護者と信頼関係を築く上で重要であると改めて痛感した。今後も、子どもの育ちを共感しあえる活動や行事の在り方を考えていきたい。</p>

4, 今後、取り組む重点的課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	ねらいに基づいた保育実践の充実に努める	<ul style="list-style-type: none">・日々の保育を見直し、振り返り、意見交換ができる業務遺憾の確保。・定期的に、保育内容を精査・検討し、ねらいを意識しながら保育実践を心がけていく。
2	特別支援の充実について	<ul style="list-style-type: none">・個別の支援方法や配慮する内容を職員間で意識統一をし、園全体で子どもを育てていくシステムを作る。・教職員間の記録の取り方と、共有方法を考える。・年間計画で、研修日を決め継続できる研修方法を考える。
3	延長保育の改善、充実に向けて	<ul style="list-style-type: none">・教職員が参加できるよう、業務内容や時間を調節する。・短時間勤務の職員との連携を図り、連絡事項や子どもの様子を伝えあい、連携を深めていく。

5, 学校関係者評価委員会の評価

・コロナ禍での園生活で様々な行事や活動が変化してきたが、今年度後半よりは、運動会や劇遊び参観、卒園式など徐々に園行事に保護者が参加できるようになり、子どもの成長を見られる機会が増えた。

保育者が保護者と一緒に子どもの成長を喜び合えたことは、保護者だけでなく、保育者にとっても大きな感動をもらった。令和5年度の行事や活動も、社会状況は考慮しながら、徐々に従来の行事に戻していきたい。

・コロナ禍において遊びや活動に制約がかかる中、「裸足で泥んこ遊び」や「プール遊び」など、園で友だちと沢山関わりながら楽しい活動やあそびを考え提供して下さったことは有難かった。

・異年齢ペア交流で1年間幼稚園の中で「自分だけのお兄ちゃん」と疑似兄弟体験ができ日々一緒に遊んだり行事に参加したりと関わりを深め、卒園前のお別れ会で別れを惜しんだ。家庭でも、ペアとの過ごした日々を話す子どもの姿を観て、思いやりや優しさ、親しい人と関わる居心地良さや温かさを感じ、家庭では味わえない「心の育ち」を感じることができた。

・保護者に子ども達の園での様子を定期的に動画配信していった。普段の園での様子を観れたことは、成長を見る機会が少なくなった保護者にとっては有難かった。

・保育園での不適切な保育、虐待事件、また園バスの園児置き忘れの事件が社会で大きく取り上げられ保護者の不安感が増すばかりであったが、本園においては、送迎で園に出向いた時いつも笑顔で声を掛け対応してくれたり、担任はいつも子どもの園での様子や出来事を丁寧に伝えてくれたりして、安心して子どもを預けることができた。

・働き方改革でICT化が進み職員の仕事の効率化が進んだ。しかし、仕事内容においては、合理化できるところと従来通り丁寧に行っていないといけないところ等業務の精査をしていく必要があると感じた。

・子どもが成長して、楽しかった時代を振り返るのは「幼児期」である。「楽しかった」「面白かった」という五感を刺激した体験は子ども達の心の中に刻まれているようだ。そのような時期に保護者同士が集えるような場所や機会を設け、楽しい思い出がつかれるよう、今後は提供していきたい。

委員会実施日 令和5年3月28日